

海堡

kaihou

東京湾海堡ファンクラブニュース

No.25

題字は、明治39年10月1日陸軍大臣寺内正毅から外務大臣林董宛に提出した文書（外交史料館所蔵）より抜粋。
紋様は、尾形光琳：『八橋蒔絵硯箱』東京国立博物館所蔵より。

目次

- 第10回 総会報告
- 関東地方整備局への要望書提出
- 富津海岸でクリーン作戦 大量のゴミを撤去
大沼 邦彦
- 東京湾海堡ファンクラブ見学会報告
～富津市竹岡台場～ 高橋 由美
- 海堡の所在地について 藤平 俊雄
- 富津岬周辺の史跡－富津・青堀・飯野地区の
歴史と文化財－ 小沢 洋

第10回 総会報告

2011年6月25日、第10回総会が富津公民館で開催された。総会出席者は47名（委任状提出者含む）で、定足数の半数を超え、総会は成立し、第1号から第5号議案が決議された。

総会の後には、「田中家文書について」田中富蔵副会長から報告があり、引き続き、シンポジウム「青い目の人形 ―もう一つの日米外交―」として、仲野正美副会長が講演を行った。

■ 報告事項 【事務局の変更】

東京湾海堡ファンクラブは、(株)地域開発研究所（東京都台東区）内に事務局を置き、2002年の発足当初から活動してまいりました。2010年9月に事務局長の島崎が(株)地域開発研究所を退任したことで、同社内で事務局を置くことが困難になりました。

その事態を受け、2010年9月14日（火）、東京湾海堡ファ

ンクラブの役員会が開催され、事務局について下記のように決まりましたので、ご報告申し上げます。

□事務局の所在地

住所：〒293-0021 富津市富津 1824（小坂会長自宅）

電話：0439-87-2023（小坂会長自宅）

ファクシミリ：0439-87-0244（安室幹事店舗）

第1号議案 2010年度事業報告

年	月	日	行事	内容
2010	4	18	富津海岸海浜植物群 生地清掃	クリーン作戦(第4回)
		20	会報24号発行	
	5	11	富津にて役員会	
	5	12	東京都議会議員の馬場裕子氏の品川第六台場視察に同行。	島崎事務局長、高橋幹事が同行。 東京都建設局公園緑地部公園建設課の担当者も同行された。 品川第六台場は、カワウのコロニーとなっており、史跡の崩壊が進んでいる。
		16	富津海岸海浜植物群 生地清掃	クリーン作戦(第5回)
	6	20	富津海岸海浜植物群 生地清掃	クリーン作戦(第6回)
	7	3	●通常総会 ◎シンポジウム14 「富津」 小沢洋氏：「富津岬 周辺の史跡」	2009年度会計報告 2010年度事業計画
	7	30	国土交通省関東地方 整備局へ要請文提出	島崎事務局長が訪問し、要請文提出。 要請文の内容：「第二海堡の整備は、海堡の歴史的な意義を認識した上で進めていただきたい。」
	8	4	東京湾口航路事務所 へ要請文提出	小坂会長ほか役員が訪問。 第二海堡の工事説明と海堡上陸の要請。
	9	14	富津にて役員会	事務局変更の件
	9	19	富津海岸海浜植物群 生地清掃	クリーン作戦(第7回)
	10	17	富津海岸海浜植物群 生地清掃	クリーン作戦(第8回)

	11	21	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第9回)
	12	19	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第10回)
2011	1	16	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第11回)
		29	◇現地見学会16〔横須賀〕追浜周辺	追浜周辺の国防遺跡と第三海堡の遺構の見学。
	2	20	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第12回)
	3	30	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第13回)

- ・千葉日報(2010.5.21)で清掃活動(グリーン作戦)について、紹介された。
- ・第二海堡の工事については、国土交通省に対し、要請文を提出した。

第2号議案 2010年度決算報告

項目		10年度予算額	10年度決算額	差違	備考
収入の部	前期繰越金	184,103	184,103		
	会費	200,000	96,000	-104,000	会報の発行回数・見学会回数が減り、会費徴収機会が減ったことが原因
	参加費	100,000	89,000	-11,000	講演会、見学会の参加費
	利息その他	-	2	2	
	寄付金	-	20,000	20,000	
計		484,103	389,105	-94,998	
支出の部	印刷費	60,000	24,420	35,580	会報印刷費、資料コピー代等
	通信費・振込手数料	60,000	26,495	33,505	会報送付、見学会・講演会案内送付、インターネット管理料等
	交通費	40,000	5,120	34,880	国土交通省東京湾口航路事務所・陳情のための交通費
	見学会・シンポジウム開催費	10,000	51,920	-41,920	会場費、機材等、ガイド料、昼食代
	文房具・備品	10,000	4,410	5,590	封筒など
	保険料	3,000	0	3,000	見学会時の保険は、ガイド料に含まれていたため、直接保険会社へ申し込むことをしなかった。
	役員会開催費	15,000	20,442	-5,442	役員会時の飲食代
	全国近代化遺産活用連絡協議会費	3,000	3,000	0	
	アクションおっぱま会費	0	5,000	-5,000	
	懇親会費用	60,000	41,520	18,480	
	説明板費用	0	30,000	-30,000	富津岬先端に説明板設置。費用の一部を当ファンクラブが負担。
	寄付金など	20,000	20,000	0	花火大会での寄付金、吉本県議出陣式お祝い金
	費用計	281,000	232,327	48,673	
次期繰越金	203,103	156,778	46,325		
計	484,103	389,105	94,998		

【予算との差異】

- ・事務局体制の変更により、会報の発行回数や見学会の回数が減り、会費の徴収機会が減少。その結果、会費の未収が増えた。

第3号議案 2011年度事業計画

年	月	日	行事	備考
2011	4	17	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第14回)
	5	15	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第15回)
	6	19	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第16回)
	6	25	●通常総会 ◎シンポジウム15〔富津〕 田中富蔵氏：「田中家文書について」 仲野正美氏：「青い目の人形～もう一つの日米外交～」	2010年度会計報告 2011年度事業計画

	7	9	海堡洋上視察会(役員)	
	8		会報第25号の発行	
	9	18	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第17回)
	10		◇現地見学会17〔富津〕海堡周辺の洋上視察	
		9	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第18回)
	11	20	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第19回)
	12	18	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第20回)
2012	1	15	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第21回)
	2	19	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第22回)
	3	18	富津海岸海浜植物群生地清掃	グリーン作戦(第23回)

- ・今年度も引き続き、富津海岸海浜植物群生地での清掃(グリーン作戦)を月1回程度行う。
- ・会報の発行は、1～2回とする。
- ・海堡見学会は、洋上からの見学とする。
- ・シンポジウムは、総会時の1回のみとする。

第4号議案 2011年度予算案

項目		11年度予算額	10年度決算額	差違	備考
収入の部	前期繰越金	156,778	184,103	-27,325	
	会費	100,000	96,000	4,000	
	参加費	100,000	89,000	11,000	講演会、見学会の参加費
	利息その他	-	2	2	
	寄付金	-	20,000	20,000	
計		356,778	389,105	32,327	
支出の部	印刷費	30,000	24,420	5,580	会報印刷費、資料コピー代等
	通信費・振込手数料	30,000	26,495	3,505	会報送付、見学会・講演会案内送付、インターネット管理料等
	講師謝金・交通費	10,000	5,120	4,880	
	見学会・シンポジウム開催費	50,000	51,920	-1,920	会場費、機材等、ガイド料、昼食代
	文房具・備品	10,000	4,410	5,590	封筒など
	保険料	3,000	0	3,000	見学会時の保険加入
	役員会開催費	20,000	20,442	-442	会議費等
	全国近代化遺産活用連絡協議会費	3,000	3,000	0	
	アクションおっぱま会費	5,000	5,000	0	
	懇親会費用	60,000	41,520	18,480	
	寄付金など	20,000	20,000	0	
	費用計	241,000	202,327	38,673	
	次期繰越金	115,778	186,778	-71,000	
計	356,778	389,105	-32,327		

- ・見学会の開催回数を昨年同様とすることから、昨年と同レベルの会費徴収額を見込んでいる。

第5号議案 2011年度役員選任の件

●2010年度役員の退任

下記4名の退任

幹事 朝倉光夫(東亜建設工業(株))

幹事 長崎哲士(彫刻家)

幹事(事務局長) 島崎武雄((株)地域開発研究所)

幹事(会計) 高橋悦子((株)地域開発研究所)

●2011 年度役員

- 会長 小坂一夫 (富津市文化財審議委員)
- 副会長 仲野正美 (前 横須賀市立北下浦小学校教頭)
- 副会長 田中富蔵 (新井区長)
- 幹事 安室真弓 (富津藩の会副会長)
- 幹事 松本庄次 (前 富津公民館長)
- 幹事 小沢洋 (富津市生涯学習課係長)
- 幹事 勝 巖 (新横商事 (株))
- 幹事 高橋克 (江戸川大学准教授)
- 幹事 渡辺京子 (富津藩の会幹事)
- 幹事 (会計) 高橋由美 (富津藩の会幹事) (新任)
- 顧問 西田好孝 (東京湾海堡建設従事者子孫代表)
- 顧問 吉本充 (千葉県議)
- 顧問 竹内洋 (富津市議)
- 監事 蓮見隆 (NPO リサイクルソリューション技術顧問)
- 事務局 高橋悦子

関東地方整備局への要望書提出

当会は、2010 年 7 月 30 日に国土交通省関東地方整備局・副局長宛て、同年 8 月 4 日に国土交通省関東地方整備局東京湾口航路事務所・所長宛てに下記要望書を提出いたしました。

これは、第二海堡の護岸工事が単なる護岸の修繕ではなく、砲台跡にも及ぶ大規模なものであることが確認されたためです。



第二海堡の工事の様子 (2010. 6. 10 撮影)
朝日新聞 高山修一記者提供



2004 年 3 月撮影時の第二海堡
国土交通省東京湾口航路事務所『東京湾第三海堡建設史』
2005. 3. 16

国土交通省
関東地方整備局
副局長
梅山 和成 様

東京湾海堡ファンクラブ
会長 小坂一夫

要 望 書

当会は、下記事項を要望いたします。

■ 第二海堡の整備は、海堡の歴史的な意義を認識した上で進めていただきたい。

第二海堡は埋蔵文化財包蔵地で、歴史的に貴重なものであり、遺構を保存した上での整備を要望いたします。

(以上)

2010 年 8 月 4 日

国土交通省
関東地方整備局
東京湾口航路事務所長
澤木 進 様

東京湾海堡ファンクラブ
会長 小坂一夫

要 望 書

当会は、下記事項を要望いたします。

■ 第二海堡の工事状況について、地元へ報告していただきたい。

第二海堡の遺構の工事着手前と現況について、地元に対し、詳しい報告をしていただくことを要望いたします。

■ 第二海堡の現地を視察させていただきたい。

第二海堡は現在、海上保安庁の管理にあり、上陸が禁止されているが、第二海堡の遺構の現況を把握するため、第二海堡の現地視察を要望いたします。

(以上)

**富津海岸でクリーン作戦
大量のゴミを撤去**

会員 大沼 邦彦

東京海堡ファンクラブ有志による富津市の富津海岸にある海浜植物群生地のクリーン作戦が 2010 年 1 月 17 日、2 月 21 日、3 月 28 日の 3 日間、実施されました。「微力ながらも家郷の美しい海岸をいつまでも守りたい」との願いを込めたクラブ員による自主活動で、参加したのは地元富津市をはじめ、

君津市、そして東京都内からもマイカーで駆けつけてくれた仲間など延べ19人が協力してくれました。

この群生地は、内湾性と外洋性、湿地性の3つのタイプの海浜植生を同一個所で見ることができる貴重な地域として、千葉県天然記念物に指定されています。そして、5月ごろからはピンクの花をつけたハマヒルガオが群生します。また、先端の富津岬は、東京湾内湾と浦賀水道の2つの海流がぶつかる場所に砂が堆積して形成された砂嘴（さす）と呼ばれる貴重な自然環境と数多くの歴史に包まれた地域です。

初日の1回目は、風が冷たかったものの快晴で、東京湾第一海堡の後ろには雪をかぶった富士山がくっきりと見え、改めて美しい海岸美を認識させられました。しかし、その砂浜に目を転じると、空き缶や空きビンをはじめ、ペットボトル、発泡スチロールの段ボール、漁具の浮き輪、大量の流木、サンダル、干からびた猫の死骸等々のゴミが散乱していました。作業ではこれらのゴミを収集しましたが、あまりに大量のゴミのため、ゴミを回収するビニール袋が足りなくなり、1時間ほどで終了しました。このあとの2回目、3回目の作業で一応、砂浜からは散乱ゴミが姿を消しましたが、これから観光シーズンを迎えるので油断はできません。現場で小坂一夫会長とも話し合い、4月以降も引き続き、クリーン作戦をすることを決めましたので、多くの会員の方々の参加をお待ちしております。

■事務局 補足■

- ・2010年1月から、富津海岸海浜植物群生地での清掃（クリーン作戦）を月1回行っている。
- ・千葉日報（2010.5.21）で清掃活動について、紹介された。
- ・NHK首都圏ニュースでは、ハマヒルガオの群生の様子が放映され、NHKからの取材に対応した。

東京湾海堡ファンクラブ見学会報告 ～富津市竹岡台場～

2010年1月23日（土）、富津市竹岡台場を実施しました。
参加者は31名でした。

「幕末海防遺跡とその周辺の史跡を訪ねる」

幹事 高橋 由美

2010年1月23日（土）散らし絹の雲は東に及ばず晴れながら寒風の日である。

10時となり、講師の高梨正氏のあいさつ。続いて富津市

観光協会長の島野勝氏の歓迎のあいさつをいただく。ありがたいことに同氏は一行30名に茶とパンを用意してくださいました。また、道案内の北村、斉木両氏もいてくださり、これも高梨氏のご配慮あってこそと深く感謝する。

当日の行程は、国道127号線とJR内房線の並走する房総丘陵の西端を湾を眺めつつ北へ行き戻るものである。まずは水戸黄門も見た、竹岡駅近くの小金井戸（ヒカリモ発生地）と皇神社を訪ねる。この藻は菜の花の時期に水面上がり差し込む光に黄金に輝くのであるが、海蝕洞の割れ目から覗くもまだ早い。洞の上にそそり立つ海蝕崖の蕨生層の黒いブツブツの褶曲を太古には海面であった現地よりよりのけぞり見る。海蝕崖の右脇の階段を上ったところに地元信仰の皇神社の屋根が見える。駅前へ戻りいよいよ北上。



小金井戸と皇神社を見学

ほどなく「東善寺」。竹岡の海は江戸時代より近年まで紀州栖原村の北村角兵衛によって伝えられた「かつら網漁法」で鯛を獲っていた。その二代目の側女の1mほどの地藏菩薩の石柱を拝す。驚いたことに案内人北村氏は末裔とのこと。昔よく獲って食べた鯛の話に耳を傾ける。



東善寺を見学（案内人北村氏）



側女の地藏菩薩

島野氏の経営する「青藍荘」でもう一人の講師の千葉城郭研究会松本勝氏と合流し城山の南端沿いを津浜海岸（砂鉄を含んだ黒い砂の磯浜）へ出る。波打ち際の側の石垣は城山の三か所の砲台跡の内の一か所で今では大砲の代わりにじゃれた別荘が乗っている。



津浜海岸の砲台跡（石垣）

山の上の砲台跡は目の上ながら、登り道は閉ざされているため線路を横切り山間の燈籠坂太師堂の裏より登り始める。一列に落ち葉径、孟宗竹の群生を抜け“最初の難所”の崖（中世の城跡本丸跡）を石垣の残骸や瓦の破片を見ながら登る。

この城山は北の白狐川河口から南にかけて海に沿うように頂部伝いにⅠ～Ⅶの郭があり、ここはⅣ郭。Ⅱ郭が最高所で標高 101m。なだらかな丘ながら等間隔のマテバシイがびっしりとあり空を見ることができない。Ⅳ～Ⅶ郭は戦国期のものに幕末の砲台構築時の大改修を見ると。私たちは、城山全体の南三分の一ほどのⅣ～Ⅶ郭を今回巡る。

Ⅵ～Ⅶ郭にかけての最大難所に至る。10mほどの急斜面を斉木氏のトラロープのお陰で無事降りることができた。砲台跡に出る。海へ向かって木立の空間が五か所ありその両脇に盛り土が見られる。空間を「砲眼」盛り土を「土まんじゅう」と呼ぶそうだ。盛り土にもマテバシイが容赦なし。割れ瓦も見られる。房総沿岸でこのように等間隔にしっかり残っているのは房州の大房岬とこの竹岡だけだそうだ。ここで正午のチャイムを聞き下山し、太師堂で朝いただいたパンを一時しのぎにありがたく食べる。堂下の堀切、手彫りの隧道を抜け国道を北へ。

白狐川沿いの「延命寺」に着く。（三柱神社は省略）墓地の始めに白河、忍、会津、備前諸藩の派遣藩士の墓が垣もしっかり手厚く整えられている。同行の筑紫敏夫氏の説明で現住職の並々ならぬご尽力の賜と知り心に春を覚える。白狐川を右下に進み十二天神社の小さな鳥居の先の河口際に三か所目の砲台跡の土塁を藪をかき分け確認する。

引き返し十二天神社先左手の橋を渡り竹岡旧街道へ。露座の大きな銅造地藏菩薩坐像（江戸時代疫病で亡くなった人々の供養のためのもので右端に三代目北村角兵衛奉納の御手洗鉢あり）を拝し、竹岡コミュニティーセンターへ。海岸での昼食は風が冷たいであろうと前述の島野会長がこ

こを借りてくださったのだ。細やかなおもてなしはさすがである。

竹岡の地より南は房総丘陵がいよいよ海へ落ち込むため海沿いの道は厳しく、中世は白狐川河口より船で川を遡り山間の街道をいったらしい。そのため竹岡港（百首港）は海路と内陸路を結ぶ交通の要衝であってここに造海城（百首城）があった。そして竹ヶ岡陣屋跡とは別に陣屋という地名もあると。竹岡の漁師は酒好き、風呂好きで時化れば質に入れてでも酒を買い質屋が 11 軒もあったそうであるが、中世から江戸そして近年と要害の地の利とかつら網漁をもって知ればいうまでもない。

2時を回ったので、国道を渡った眼と鼻の先の「十夜寺」「不動院」その先の海防藩拠点となった「竹ヶ岡陣屋跡」は次回となり、ここで解散となった。

終わりに、遠来より不便な地へお越しくくださった方々、本当にありがとうございます。そして島野観光協会長はじめ講師、案内人、資料作成の事務の方々に恵まれお陰さまで事故もなく、今なお残されし幕末の香りに触れることができたことは本当にしあわせて忘れぬ竹岡となりました。皆様ありがとうございます。

海堡の所在地について

会員 藤平 俊雄

東京湾口に浮かぶ海堡の所在地については、第一・二海堡が富津市、先般撤去された第三海堡は横須賀市であったことは知られていますが、この程これらの自治体の所属となった法令手続を調べましたので、報告します。

○ 明治二十七年六月十九日 内務大臣臨時代理
司法大臣芳川頭正

勅令第七十二號(官報六月二十日)

東京湾口ニ築設シタル第一及第二海堡地ハ千葉縣ノ管轄トシ第三海堡地ハ神奈川県ノ管轄トス

(内閣官報局編 明治年間法令全書)

○告示第八十號

本年勅令第七十二號ヲ以テ本縣ノ管轄ト定メラレタル第一及第二海堡地ハ明治十一年第十七號

布告郡区町村編成法第八条ニ依リ周准郡ノ所属ト為ス

明治二十七年八月三日 千葉県知事兵頭正懿

(縣報第八百三拾五號、明治二十七年八月三日)

○神奈川県令第二十七號

本年六月勅令第七十二號ヲ以テ本縣管轄ト定メラレタル東京灣口ニ築設ノ第三海堡地ハ三浦郡所属トス

明治二十七年八月四日 神奈川縣知事 中野健明
(神奈川縣公報第六百六號、明治二十七年八月六日)

第一海堡は明治14年8月に工事着工し、人工島部分は明治20年6月に竣工、上部施設は明治23年12月の完成であるので、施設完成後の編入手続となる。

一方、第二海堡及び第三海堡はそれぞれ明治22年7月、明治25年8月の着工で、人工島部分の完成は、明治32年及び明治40年を待たなければならなかったため、土地造成竣工前に千葉県及び神奈川県への所属手続が行われたことになる。

富津岬周辺の史跡 —富津・青堀・飯野地区の歴史と文化財—

東京湾海堡ファンクラブ2010年総会講演(2010年7月3日)

富津市教育委員会生涯学習課 小沢 洋

1. 旧石器時代

・前三舟台遺跡(前久保)

2. 縄文時代

・前三舟台遺跡(前久保/草創期・早期・中期・後期)・神明山遺跡(下飯野/早期)

3. 弥生時代

・前三舟台遺跡(前久保/中期)・打越遺跡(下飯野/後期)・下谷遺跡(下飯野/後期)

4. 古墳時代

- ・日本武尊渡海、弟橘媛入水、雲宮伝説(上飯野・雲宮碑)
- ・上野遺跡(大堀/前期集落、伊勢湾沿岸からの移住民の形跡あり)
- ・打越遺跡(下飯野/前期集落)
- ・5世紀 内裏塚古墳(二間塚)・上野塚古墳(大堀)築造
- ・6世紀 九条塚古墳(下飯野)・古塚古墳(二間塚)・稲荷山古墳(青木)・三条塚古墳(下飯野)・西原古墳(大堀)・姫塚古墳(青木)・蕨塚古墳(二間塚)など築造
- ・7世紀 割見塚古墳(二間塚)・亀塚古墳(上飯野)・森山塚古墳(下飯野)など築造
- ・亀塚遺跡(青木/後期～終末期集落)
- ・下平治横穴群(上飯野/後期～終末期)

5. 奈良時代

・亀塚遺跡(青木)・狐塚遺跡(青木/「大生町万呂」墨書土器出土)

・709年(和銅2年)富津・医光寺創建

・744年(天平16年)西川・福恩寺創建

・772年(宝亀3年)上飯野・大福寺創建

・末珠名(万葉集・珠名冢石碑が二間塚・内裏塚古墳上にある)

6. 平安時代

・亀塚遺跡(青木)・狐塚遺跡(青木)・南口遺跡(下飯野)

・983～984年(永観年間)富津・大乘寺創建(当初は岩瀬に建立)

7. 鎌倉時代

・源頼朝の北上ルート

・1250年(建長2)富津・東福寺創建(木造千手観音坐像は1327年造立)

・1314年(正和3)下飯野・法性寺創建

・1332年(正慶元)篠部・万福寺建立(銅造釈迦如来・両脇侍像)

8. 室町時代

・1338～1341年(暦応年間)長秀寺板碑(1)造立

・1346年(貞和2)本郷・金蔵院創建(本尊・木造地藏菩薩立像)

・1365年(永禄8)長秀寺板碑(2)造立

・1370年(応安3)富津港と問丸の存在記録される(「波多沢村検見帳惣田数目六事」)

・1540～1544年(天文9～13)北条水軍による富津周辺の海岸に侵攻

・1567年(永禄10)北条・里見両軍三舟山麓で合戦、里見軍勝利に終わる

9. 安土桃山時代

・1590年(天正18)旗本小笠原信元、富津・新井・西川・本郷の領主となり、富津陣屋を構える(以後、1811年(文化8)まで221年間小笠原領となる)

・ ” ” 小笠原信元、富津・長秀寺再興

・1593年(文禄2)二間塚・善龍寺創建

・1598年(慶長3)大堀・明澄寺創建

・1601年(慶長6)青木・淨信寺創建

10. 江戸時代前期

・1612年(慶長17)西川・正珊寺創建(旗本小笠原氏歴代の墓所)

・1620年(元和6)飯野・青木・川名・篠部村、小笠原(広勝系)領から幕府直轄領(領主:代官熊沢三郎右衛門)と

なる

- ・1629年（寛永6）飯野・青木・川名・篠部村、飯野藩領（保科正貞）となる
- ・1648年（慶安元）飯野藩主保科正貞、下飯野に飯野陣屋を造営
- ・1660年（万治3）頃富津村で地引網漁始まる

11. 江戸時代中期

- ・1691年（元禄4）飯野藩重臣15名、二間塚・笹塚観音堂に御手洗寄進
- ・1696年（元禄9）飯野藩主保科正景、淨信寺に石燈籠寄進
- ・1701年（元禄14）野島浦（現横浜市金沢区）と富津村の漁場紛争（富津浦裁許絵図）
- ・1702年（元禄15）頃富津で平貝・ミル貝の請負が行われる
- ・1720年（享保5）富津村の生魚押送船、江戸直送を許される
- ・1778年（安永7）富津・八坂神社本殿建立
- ・1785年（天明5）大堀村、幕府領から飯野藩領となる（藩主7代保科正率）
- ・1787年（天明7）天明の飢饉で、富津・川名に打ち壊し起こる

12. 江戸時代後期

- ・1801年（享和5）伊能忠敬、富津周辺の海岸を測量
- ・1810年（文化7）白河藩主松平定信、房総の海岸防備を命じられる
- ・〃〃 女流俳人・織本花嬌死去し、大乘寺に葬られる（織本花嬌の墓）
- ・1811年（文化8）川名・篠部村、飯野藩領から白河藩領となる
- ・1815年（文化12）成田山中興の祖・原口照輪、川名村に生まれる（原口照輪生誕地）
- ・1822年（文政5）富津陣屋・富津台場完成（波佐間陣屋・洲崎台場を解体して移転）
- ・1823年（文政6）近江屋甚兵衛、人見村で海苔養殖を創始
- ・〃〃 白河藩、桑名へ転封。幕府代官森覚蔵、富津陣屋・台場を継承
- ・1826年（文政9）青木村と富津村の漁場紛争、西川・新井村と青木村の浦境紛争
- ・1827年（文政10）大堀村で海苔養殖始まる
- ・1828年（文政11）青木・大堀両村と富津村の漁場紛争
- ・1829年（文政12）青木村で海苔養殖始まる
- ・〃〃 紅茶製法の祖・多田元吉、富津村に生まれる

- ・1833年（天保4）幕末・明治の漢学、兵学者・織本東岳、富津村に生まれる
- ・1836年（天保7）富津村漁師53名、暴風雨のため溺死（大乘寺・溺死五十三人霊塔）
- ・1839年（天保10）江川太郎左衛門・鳥居耀蔵、伊豆・相模と共に房総の海岸を巡視
- ・1842年（天保13）忍藩（松平忠国）、富津・新井・西川の領主となり富津陣屋に入る
- ・〃〃 海苔築建移殖法の創始者平野武治郎、大堀村に生まれる
- ・1843年（天保14）西川・新井村で海苔養殖始まる
- ・1844年（弘化元）近江屋甚兵衛死去（人見青蓮寺・近江屋甚兵衛の墓）
- ・1845年（弘化2）飯野藩、青木に見張番所を設置
- ・1847年（弘化4）会津藩（松平容衆）、忍藩に代わって領主となり、富津陣屋に入る
- ・1848年（嘉永元）会津藩士、富津陣屋沖から竹岡白狐川口まで遠泳を実施（会津藩士水泳の額）竹岡三柱神社蔵・千葉県立中央博物館保管）
- ・1850年（嘉永3）大堀村、飯野藩領から会津藩領となる
- ・1851年（嘉永4）内裏塚古墳の上に珠名冢碑建立（山田重春）
- ・1853年（嘉永6）柳河藩（立花鑑寛）、会津藩に代わって領主となる（竹岡は岡山藩）
- ・1858年（安政5）二本松藩（丹羽長富）、柳河藩に代わって領主となる
- ・1867年（慶応3）前橋藩（松平直克）、二本松藩に代わって領主となる
- ・1868年（慶応4）林忠崇の反乱軍が富津陣屋を包囲し、前橋藩はこれに兵士・武器・糧食の提供、その責を負って家老小河原左宮は自刃（小河原左宮自刃の碑）

13. 明治時代

- ・1871年（明治4）廃藩置県で木更津県設置
- ・1873年（明治6）千葉県成立
- ・1881年（明治14）元洲砲台・第一海堡起工
- ・1883年（明治16）平野武治郎、海苔築建移殖法を完成
- ・1884年（明治17）元洲砲台完成
- ・1889年（明治22）第二海堡起工
- ・1890年（明治23）第一海堡完成
- ・1892年（明治25）第三海堡起工、織本東岳死去（大乘寺・織本東岳の墓）
- ・1895年（明治28）富津岬周辺、東京湾要塞地帯に指定

- ・1897年（明治30）君津郡成立、富津町町制施行
- ・1902年（明治35）富津・大堀・青木漁業組合結成
- ・1904年（明治37）富津町で海苔養殖始まる
- ・1906年（明治39）内裏塚古墳発掘
- ・1908年（明治41）亀塚古墳発掘
- ・1910年（明治43）九条塚古墳発掘
- ・1911年（明治44）飯野神社合祀（村内15社合祀・飯野神社合祀記念碑）

14. 大正時代

- ・1914年（大正3）平野武治郎、海苔養殖発展の業績により、大正博覧会で金牌を授与、同年9月逝去（大堀明澄寺・平野武治郎の墓）
- ・ ” ” 第二海堡完成
- ・1915年（大正4）木更津一上総湊間鉄道開通、青堀駅開業、元洲砲台旧式のため除籍
- ・1920年（大正9）富津町大火、300余戸延焼
- ・ ” ” 富津大正館開業（当初は芝居小屋、昭和初期から映画館となる）
- ・1921年（大正10）第三海堡完成
- ・1923年（大正12）関東大震災で第三海堡大破、飯野村大被害（飯野神社震災記念碑）
- ・1924年（大正13）青堀－富津岬間に軍用鉄道敷設
- ・ ” ” 富津－横浜間に定期船明治丸就航
- ・1926年（大正15）青堀町町制施行

15. 昭和時代

- ・1927年（昭和2）西原古墳発掘
- ・1828年（昭和3）上飯野雲宮に雲宮行在遺蹟記念碑を建立
- ・1945年（昭和20）アメリカ軍、富津岬に上陸（アメリカ軍上陸の碑）、海堡爆破
- ・1951年（昭和26）富津岬の旧陸軍用地を県立公園富津公園に指定
- ・1953年（昭和28）全国植樹祭が富津町で開催される（昭和天皇御手植えの松）
- ・1954年（昭和29）富津州海浜植物群落地、県天然記念物に指定
- ・1955年（昭和30）富津町・青堀町・飯野村が合併して富津町となる
- ・ ” ” 千葉県立富津海洋資料館開館
- ・1957年（昭和32）富津有線放送協会設立、放送開始
- ・1958年（昭和33）南房総国定公園指定
- ・1962年（昭和37）米海軍のイーグル・コリア号第二海堡付近で座礁、重油流出

- ・1964年（昭和39）富津岬で横断橋建設促進花火大会を開始
- ・1968年（昭和43）富津電報電話局開局（青木）
- ・1970年（昭和45）青堀・青堀南部・新井の各漁業協同組合、漁業権を放棄
- ・1971年（昭和46）富津・大佐和・天羽の3町が合併し、富津町を経て富津市となる
- ・1973年（昭和48）富津公園ジャンボプール開設、千葉県立富津海洋資料館閉館
- ・1976年（昭和51）富津有線放送廃止
- ・1978年（昭和53）富津沖埋立認可・起工式、全富津漁業協同組合設立
- ・1979年（昭和54）富津・貴布禰神社焼失（翌年再建）
- ・1980年（昭和55）富津沖埋立工事開始
- ・1981年（昭和56）富津沖埋立地の新地名「新富」に決定
- ・1984年（昭和59）富津公民館完成（新井）
- ・1985年（昭和60）富津岬で全国育樹祭開催
- ・1988年（昭和63）東京電力富津火力発電所全面操業
- ・ ” ” 青堀駅前ターミナル完成

16. 平成時代

- ・1992年（平成4）富津市役所新庁舎落成（下飯野）
- ・1993年（平成5）火葬場富津聖苑完成（前久保）、富津埋立記念館開館（新井）
- ・2001年（平成13）富津公民館に富津ふるさと展示室開設
- ・2002年（平成14）富津公民館東京湾学講座開講
- ・ ” ” 内裏塚古墳、国指定史跡となる
[2010年（平成22）5月31日～6月4日作成]

以上

～ 会費納入のお願い ～

今回、振替用紙を同封いたしました。

2011年度の会費のご入金をお願い申し上げます。

すでにご入金いただいているにも関わらず、振替用紙が入ってございました際は、ご容赦願います。

事務局の変更等の諸事情により、2010.7.3に行われた総会の報告ができませんでしたが、すべての議案が承認されたことをここに報告いたします。

「海堡」 *kaihou* No.25

—東京湾海堡ファンクラブニュース— 第25号

東京湾海堡ファンクラブ 2011年11月1日発行